

地域おこし協力隊員としての活動を振り返って

▲おもてなし力向上のため、村山さんが鹿屋の情報をまとめ、農泊の受け入れ家庭等に配布した冊子



3月に地域おこし協力隊員の村山寛光さんが、その任期を終え、退任しました。2年半にわたり、教育旅行(修学旅行など)の誘致や大隅の観光振興に取り組んできた村山さんに、その活動で経験したことなどについて、振り返ってもらいました。



▲特攻・基地の歴史を生かした「平和学習」と質の高い「農家民泊」が体験できることを鹿屋の特色として掲げ、鹿屋・大隅への教育旅行の誘致を行った。

教育旅行誘致に手応え

着任当時、平成28年に発生した熊本地震の影響で、鹿屋だけでなく県内を訪れる教育旅行の数が激減していました。そのため、大阪や東京等の旅行社や学校に何度も出向き、営業活動を行いました。その結果、旅行商品を作る担当者や学校の先生方と関係を築くことができ、令和元年度には着任時の3倍以上の旅行者を誘致することができました。

観光業で収益を

勤務先を市役所から株式会社におおすみ観光未来会議に移してからは、同社の収益事業を生み出すことに力を注ぎました。数百人規模の人が動く教育旅行は、経済効果も大きいものがあります。大隅地域の各自治体や団体等と連携し、教育旅行の受け入れ窓口として効果的な営業や販売促進に努め、収益を生む仕組みを作ることができました。

一番の思い出

印象深いのは、誘致から受け入れまで携わった、広島県の中学校の教育旅行です。「他

地域に無い平和学習」と「質の高い農家民泊」をしてほし

いと先生から要望を受けていたため、無事に受け入れが終わり先生からお礼の言葉を頂いたとき、その思いに伝えられたことに達成感を感じました。今後も、これまでの経験を生かし、大隅の活性化に役立つことがあれば、関わっていきたく思います。

むらやま ひろみつ
村山 寛光 さん (69 歳)

昭和26年垂水市生まれ。長年にわたり観光業に従事。平成29年10月に市の地域おこし協力隊員「グリーン・ツーリズムコーディネーター」に任命され、市ふるさとPR課に配属。その後、株式会社おおすみ観光未来会議 企画営業部チーフディレクターとして、教育旅行の誘致などに奔走された。



編集後記

一番大事なことは健康。今までにない状況だからこそ、冷静に一人ひとりができることを行い、協力し合って、乗り越えていきたいですね。(池之上)

致 誠とは、まごころを尽くすこと。この編集後記は上から頭文字を合わせて一つの言葉になります。今後も「一致団結」して心を込めた誌面作りに取り組みます!(徳永)

団 体でも個人でも行けば飲める移動式コーヒー Gcafeさん。オーナーさんの「うちは拘りの豆です」の一言で、取材後、迷わずコーヒー豆を購入しました!(櫛間)

結 構便利なマイナポイント。まだマイナンバーカードを取得していない人も、これを機に取得して、マイナポイントをゲットしましょう!(上古殿)

お便り&メッセージ

※キリトリ線

ご協力ありがとうございました。

ご応募の際にご記入いただきました個人情報(抽選・賞品(賞品引換券)の発送・アンケート統計以外の目的で使用することはありません。